

第5章 地域の行動

第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

ここでは、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議となります。

地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

地球温暖化防止やごみの分別、リサイクルの推進では、講座の開催やイベントでの啓発活動で多くの市民に大切さをアピールすることができましたが、まだ無関心の方も見受けられるので、今後も地道に活動が続ける必要があります。

河川の現状は、イベントなどを通してカジカ、ホトケドジョウなど希少生物を数多く確認することができ、生息環境が年々良くなっています。しかし、ごみの清掃については、あまり回収量が減らないので活動の工夫が必要だと思います。

まちの環境保全活動では、都市緑化フェアの開催などで、みどりに触れる機会も多くなり関心も高まりましたが、市街地のみどりの保全など更なる啓発活動が必要です。

■中央地区の主な取組

1 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

地球温暖化防止活動推進員として、中央地区から多くのメンバーが参画し、家庭グループと調査・分析グループのリーダーを務めました。

省エネルギーセンターの「家庭の省エネエキスパート検定」の受験を薦めることや、ブラッシュアップ学習会を開催することでスキルアップを図りました。また、八王子独自の省エネハンドブックを配布したり、家庭の省エネ講座を開いて市民が自らできる省エネ行動を説明したほか、市民センターなどで利用者に対し省エネ行動のアンケートを実施し、省エネ行動を周知・啓発しました。

5月にはゴーヤの苗作りをして、6月の環境フェスティバルでクイズの景品として配布しました。

2 ごみの分別徹底とリサイクルの推進

4月の春のみずき通りフェスティバル、7月の中野市民センター七夕まつり、10月の子安・台町・大和田市民センターまつり、11月のいちょう祭りで「環境コーナー」を設け、クイズを通して正しいごみの分別を説明しました。そして、クイズの景品として生ごみから作った堆肥を配布し、生ごみの堆肥化を促進しました。

エコひろばでは「もったいない委員会」に参画し、「あったかホールまつり」などのイベントを支援しました。また、ダンボールコンポスト事業では生ごみリサイクルリーダーとして支援しました。



省エネ生活の紹介（いちょうまつり）



ごみの分別クイズの実施（中野七夕まつり）

3 河川の清掃活動

浅川の清掃として、年3回（5月、6月、11月）計画し、河川巡回観察で清掃場所を見定め、河川敷や水際を中心に活動しました。また、浅川での自然体験講座、ウグイの放流イベントや調査活動などの際に、会場周辺の水際や橋の下などの河川敷の清掃を積極的行いました。より良い水辺環境のためにこれからも地道に努力していきます。

4 河川の巡回観察・調査活動の推進

浅川の巡回観察を実施し、会員に内容を報告しました。

6月に身近な水辺環境の全国一斉調査に参加し、浅川大橋と鶴巻橋下の地点で水質調査を行いました。水質はきれいな水のレベルでした。

11月には、川口川の浅川合流地の造成ワンドの水生生物と水質・湧水量の調査を行いました。ワンドの湧水量は、台風で湧水集水導管敷設の護岸が削られ、一部川口川に漏れ出たことにより昨年に比べやや減少していました。

萩原橋下のワンドは台風で消滅し、その上流の湧水集水出口溜まりは冠水しても形態は維持されていました。11月に湧水集水溜まりの出口水路と新たに平岡排水口部の湧水集水出口水路の流量調査を行いました。萩原橋上流の湧水集水溜まりの湧水量は変化が大きく、水枯れ状態になることもありました。

5 環境教育・環境学習などの推進

9月に自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を実施し、親子合わせて74名の参加がありました。当日は、水生生物捕獲・ボート遊び・魚釣りをを行い、アンケート結果では、多くの参加者が「同じような講座があったら参加する」と回答するなど好評となりました。

また、中央地区の小学校環境教育（4校）の支援活動（9回）に会員延べ38名がスタッフとして参加しました。

八王子浅川水辺の楽校運営協議会への協力は、5月・6月にアユ（1回）・ウグイ（5回）の放流イベントにスタッフとして延べ13名が参加しました。また、5月の桑都ライオンズクラブ「川で遊ぼう」には、スタッフとして3名が参加、7月の「ガサガサ探検隊」には、スタッフとして10名が参加、緑化フェアの南浅川魚獲りには、スタッフとして2名が参加しました。

■特色のある取組

- 1 まちのみどりの保全啓発を目的としたまちなかウォッチング（自然体験講座）「甲州街道・八王子宿を歩く」を11月に開催し、参加者20名が市街地のみどりやまちの歴史などについて観察しました。
- 2 市役所前通りのアドプト活動に会員2、3名が毎回参加しました。（毎月第二土曜日、8月は休み）
- 3 市内の街路樹を表したグリーンマップを環境フェスティバルや市民センターまつりなどで約1,000部を配布し、まちのみどりについて周知しました。
- 4 6月と12月に、地区内の幹線道路などにおいて大気汚染測定を行いました。



河川クリーン活動



ワンドの水生生物・水質・湧水量調査



浅川ふしぎ探検

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区の東エリアは住宅地が開発されています。その中に、従来からの緑地が保存緑地として保存されている箇所もあります。西エリアは南・北加住丘陵があり、豊かな緑が残っています。地域の中央を谷地川が流れ、上流では従来からの自然護岸が残っています。

一方、交通面では、国道１６号、１６号バイパス、国道２０号、滝山街道に加え、新滝山街道が開通し、中央自動車道八王子ＩＣの他に、圏央道あきる野ＩＣが近くに建設され、交通の要衝となっています。このような状況の中で、以下の問題も顕在化してきており、多分野からの対応を求められています。

- ・ 谷地川上流部での水質・水量の改善
- ・ 加住丘陵などで、手入れが行われない樹林地の存在
- ・ 生活の場所から見えない場所でのごみの不法投棄
- ・ 環境保全活動が共通の認識になっておらず、温度差がある
- ・ 小・中学生が地域にある貴重な自然資源や文化、歴史を知る機会の少なさ
- ・ 地域内の幹線道路の大気汚染の状況は横ばいである

■ 北部地区の主な取組

1 谷地川の調査と清掃活動

谷地川の７地点（上流端の岩の入橋から合流点に近い新旭橋間）を対象に、水質指標としてＣＯＤ（パックテスト）、ｐＨ、電気伝導度、溶存酸素量を２か月ごと、水量を季節ごとに定点観測し、さらに生物調査を１回実施しています。全国一斉水質調査を６月４日に実施し、調査が開始されてから全てに継続して参加しています。

また、９月３日に市主催の「川の清掃デー」に参加し、滝山二丁目町会と協働して谷地川の清掃を実施しました。午前６時から約１時間、メンバーは河川敷のごみを回収しました。



谷地川での水生生物捕獲

2 緑地保全活動

北部地区の活動団体と協働して、市内の都有地・市有地で緑地保全整備活動を実施し、市内にある里山雑木林の保全維持に貢献しています。

対象とする緑地は、大谷緑地（活動回数：２４回／年）、暁町緑地（１２回／年）、中野山王緑地（１２回／年）、大和田緑地（４回／年）、栗の須緑地（６回／年）、戸吹北緑地（１２回／年）、滝山城跡（１２回／年）で雑木林での下草刈り、間伐が主体です。中野山王緑地、栗の須緑地では市の公園アドプト制度で、きれいな竹林の保全に貢献しています。



緑地保全活動（間伐）

3 環境教育・環境学習などの推進

市内の他団体とともに、小宮小学校４年生を対象に、市内の小学校では唯一多摩川の自然を学ぶ

授業を支援しています。延べ4回実施し、環境教育として体系的なプログラムであり小学生には非常に有効です。最終的に活動の概要を示すパネルを作成しました。大和田小、第八小、緑ヶ丘小、渋谷区の代々木山谷小に対しては、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ場として活動を実施しました。小学生の自然体験は、楽しみながら自然を体験し学ぶ場になっています。大学生に対しては、東京グリーンキャンパスプログラムとして、首都大学東京の学生25人に対して年2回(春と秋)、また、企業に対しては、東京グリーンシップアクションとして、6社に対して延べ8回にわたり緑地の整備の体験を通して、環境問題や緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。

4 大気汚染測定

地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所等を対象に二酸化窒素濃度調査を実施しました。調査地点は、39か所の定点調査で、年2回(6月、12月)都内一斉調査日に実施しています。大きな変化はありませんが、地区を通る16号バイパスでやや高い濃度の測定値が続いています。

5 地区の環境マップ作成

29年度は、環境マップを更新しました。緑地、巨樹、湧水等のリストを含め地域の見どころを写真で紹介しています。地区内を網羅した散策4コースは、それぞれ特色のある歩き応えのあるものになっています。

環境マップは各種イベントで配布し、北部地区の素晴らしさを知ってもらうために活用しています。



環境マップ表紙

■ 特色のある取組

1 環境フェスティバルへの参加

環境フェスティバルに参加し、地区及び団体の活動を紹介するパネルの展示や、谷地川で捕獲したホトケドジョウ・カワムツ・ヤゴ・エビなどを水槽展示しました。谷地川に残る自然に感激される方もいました。また、来場者には、草花(4種類)と押し花を入れたしおりをパウチで作成し、配布しました。自分で文字を書き入れるなど好評でした。



環境フェスティバル

2 環境パネル展への参加

10月に市役所ロビーでの市主催の環境パネル展に参加しました。また、引き続き北部の石川地区、加住地区の市民センターをお借りして一週間毎に地域での環境パネル展としてPR活動をしました。特に石川地区では谷地川の魚及び水生生物の水槽展示が好評でした。



石川市民センターにて

3 自然体験講座の実施

10月に計画した「滝山城跡の自然と歴史を知る講座」は、残念ながら雨天で中止でしたが、3月末の「滝山城跡と高月地区の田園地域を散策」の講座は、滝山城跡が続日本100名城に選定されたこともあり人気が高く、35名の定員一杯の参加者になりました。時季的にも田園風景や円通寺のシダレサクラ、カタクリも見頃で風景と自然を感じることができる講座になりました。



自然体験講座(滝山城跡)

4 施設見学の実施

会員の環境意識の向上や自己研鑽を目的に、地区内の多方面にわたって関係施設を見学しました。(八王子水再生センター、O社技術歴史館、E社リサイクル施設)

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区環境市民会議（以下、当地区）の活動範囲は八王子市の40%にも及ぶ広大な面積を有しており、緑豊かな自然の中で多様な生態系が形成されています。

しかし、当地区を流れる多くの河川では保水力と浸透性が低下し、水量の減少や瀬切れなどが起こっています。さらに、外来植物の繁茂は景観を損なうばかりに止まらず、恰好のごみ捨て場と化しています。当地区では年数回のクリーン活動において外来植物を駆除していますが、大きく成長した草木は会員では駆除できず、公的機関の力も必要としています。

また、前年度は休止した「大気汚染測定」を地区内の15か所で再開しました。

当地区内には中央自動車道を始め陣馬街道や高尾街道などの幹線道路が通っており、大気汚染が懸念されることから、今後も注意深く継続した計測を行っていきます。

さらに、環境学習の支援や高尾の森自然学校への整備支援も継続して行っています。

■西部地区の主な取組

1 大沢川・城山川クリーン活動

地域を流れる大沢川と城山川で、年4回クリーン活動を行っています。川へのごみの投棄は相変わらず多く、その都度、ボランティア袋で可燃ごみ10袋以上、他に缶、ペットボトル、金属類などを拾っています。

特に7月から9月には、外来植物やその他の雑草が背丈以上にも伸びて伐採集作業も大変です。

ごみ問題に対する住民の意識の向上のため「環境レポート」を発行、地域に回覧しごみ捨て禁止活動も行っています。



川のクリーン活動

2 特定外来植物の駆除

大沢川と城山川に見られる特定外来植物のアレチウリや要注意外来植物のオオブタクサ、キクイモ、セイタカアワダチソウやキショウブ等の刈込駆除を、年4回の川のクリーン活動に併せて実施しています。中でも、アレチウリは減少の傾向にあります。

一方、ナガミヒナゲシが大沢川の川辺にも侵入してきたので、ギシギシと一緒に2月から3月に刈り取りを行っています。

3 河川・湧水の水質調査

大沢川や城山川など13地点で年2回の水質調査を実施しています。水とみどりの研究会主催の「水環境の全国一斉調査」に加わり、毎回データを提出しています。

大沢川の村長橋付近では、長期間にわたって瀬切れが生じており、採水できない状態です。

一方、湧水の調査は6か所で実施しており、COD値は良好に推移しているものの、水量は減少しつつあります。また、叶谷榎池では藻の繁殖が見られます。

4 環境学習支援事業の実施

(1) 環境教育支援

小学校の総合学習「川の生き物調べ」では、児童が採集した川の生き物に接して自然を体験し、楽しみながらの学習となっています。

29年度の環境教育支援は、川口小学校2回、式分方小学校1回、横川小学校は都教育委員会の「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」として、1年生から5年生に5回の支援を行いました。

スタッフとして延べ38名が保護者の協力も得ながら、一緒に支援しています。



川の生き物調べ

(2) ダンボールコンポスト支援

式分方小学校では、25年度よりダンボールコンポストを利用して生ごみの減量と資源化の取り組みを推進しています。4年生が毎日交代で自宅から生ごみを持参し、コンポストに投入しています。参加した児童数は58名で1か月の生ごみの量は100kgにもなりました。微生物の力を借りて堆肥を作り、学校の畑作りに活用しています。畑で獲れた大根は、学校で“おでん”にして味わい、残った分は自宅に持ち帰っています。コンポストによる堆肥作り体験から、自分たちの行動が社会や環境のためになるという意識が芽生えることを願っています。

このような活動に対し、環境省が主催する「第5回グッドライフアワード」で「つなげようダンボールコンポストの輪」が環境大臣賞（学校部門）を受賞し、支援した当地区として大変喜んでいます。

■特色ある活動

(1) 自然体験学習の実施

当地区にある多くの寺社仏閣や豊かな自然を市民と一緒に見て回る「自然体験講座」を年2回行っています。

5月に「爽風の浅川沿いの道をゆく」、3月には「高尾の森自然学校で早春の芽吹きを探そう」を行いました。

これからも当地区の豊かな自然を見て回る自然体験講座を計画します。



自然体験講座（高尾の森自然学校）

(2) 地域への啓発活動

啓発活動の一つとして、地元の町会員と一緒に「戸吹清掃工場」の見学会を行いました。

また、年2回、地域の現状を分かり易く説明する「環境レポート」を発行して近隣町会や市民センター等に配布することや、元八王子事務所内の「地域の力 市民の力」コーナーの一部をお借りして環境保全の写真パネルを常時展示し、当地区の活動内容の紹介も行っています。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山とその周辺には貴重な自然や史跡が多く、来山者数300万人が訪れる人気スポットです。高尾山の自然観察会や環境パトロールでコースを実踏した環境調査の中で、高尾山周辺の案内板を設置することで、入山者にも環境にも配慮できると考えています。

全国都市緑化はちおうじフェアの西南エリア南浅川会場の催しや池の沢体験楽習の参画は、地域の自然と人の交流に今後も活かされます。

西南部地区の流域では小仏川沿いの希少植物の保護、南浅川、湯殿川の水質改善と生き物の生息の関連マップを制作展示しました。また、湯殿川では清掃活動とは別に河川の水辺調査からは、さらに市民に親しめる河川にすべく、地域の宝と結んだ周知が必要です。

29年度の環境教育支援活動では、指定小学校が3校に減少しましたが、教育の継続性からみて、当会に支援を望む5校については切れ目のない支援実施が重要です。

毎年、いちょう祭りのごみ分別指導活動では高校・大学生を中心に事業者と300余名でクリーンな祭の実現のため、来場者や出展者の協力を得て取り組んでいます。

■ 西南部地区の主な取組

1 高尾山の環境保全活動

- (1) 自然観察会（植物、動物）を5、8、10、2月に実施し、延べ23名の参加、また、環境パトロール（自然、構造物、景観）は6、9、12、3月に実施し、延べ26名参加しました。
- (2) 高尾山集中の分散化のため周辺への案内板11か所の設置要望書を観光課に提出しました。

2 地域の宝の掘り起こし

- (1) 「自然体験講座」里山尾根歩きコース

エコひろばとの連携で10月に実施。応募参加者18名、スタッフ含め総勢32名でした。

- (2) 川の生き物調査のパネルの作成

湯殿川（御霊神社前）、南浅川（古道橋周辺）の生き物調査のパネル（2枚）を作成し、展示活用できました。

3 里山の保全活動

- (1) 都環境公社主催「里山へGO！」池の沢にホタルを増やす会と共に年3回（6、9、11月）参加しました。
- (2) 自然体験講座、観察会を他団体と協力し実施しました。
 - ア. 4月駒木野 野草観察会（小仏川沿い駒木野コース）
 - イ. 8月里山探検隊（体験楽習フェスティバル2017）
 - ウ. 野鳥観察会（南浅川 古道橋～横山橋の両岸での探鳥）



8月里山探検隊 館町緑地保全地区

4 親しみのある水辺環境の構築

- (1) 流域の水質検査

6月4日の全国一斉水質検査は地区内の8河川の21か所で測定しました。CODの平均は1.5で28年（2.5）より低く、当会の測定地点の結果は市内の環境マップに掲載されます。

- (2) 湯殿川の清掃活動

湯殿川の清掃（境橋下流から和合橋）は5年目となり、29年度は5月に17名で実施しま

した。大型ごみは自転車（２台）や布団などがあり、一般ごみはボランティア袋で１３袋回収しました。自転車の回収は５年連続であり、川へのマナーの向上が望めます。

（３）湯殿川の水辺環境調査

湯殿川流域（湯島橋～白旗橋）の水辺環境調査は７月と１０月に各８名参加し、９か所ある親水公園や遊歩道が年間を通して親しめるかどうかを調査しました。親水公園は年２回の草刈作業では不十分で、環境教育で利用する２か所を含め５か所の草刈りを増やし年間を通して親しめる水辺に、また、遊歩道沿いの植栽も半分位の高さに管理し視界を良好にするように、水環境整備課へ提案書を提出しました。



湯殿川の川中の自転車引揚げ作業

５ 環境パトロール

（１）大気汚染測定（ NO_2 ）

大気汚染測定（ NO_2 ）は６月と１２月に地区内の幹線道路など３２か所を測定しました。

２９年度は大型商業施設の開業前後の交通量の増加に伴う測定値に注目しましたが、６月（開業前）と１２月の測定値変化は見られず、次年度も影響があるか測定方法を含め検討していきます。

（２）不法投棄パトロール

例年通り殿入中央公園周辺の不法投棄パトロールを３月に１３名参加し実施しました。公園南側の埋立地にはタイヤなどの大型ごみや空き缶等のごみが見られました。

ごみを収集後、館清掃事業所に報告書を提出の上、予防策と一緒に検討し、警告板を道路沿いに設置しました。

その効果があったと思われます。



小学生、当会、市役所協働の警告板

■特色ある取組

１ 市立学校環境教育支援

２９年度の地区内の支援校は３校に減少されました。実施校は緑が丘小４年生（６３名）、桐田小４年生（９２名）、横山第二小４年生（４２名）で、近くの河川の自然環境、植物、生き物の採取体験をし、自分たちが興味ある課題を見つけ取組む“課題別体験学習”を行いました。各校とも２回ずつの教育支援と校内発表会も行われ、支援者総数６０名で支援活動を実施しました。

２ 第３４回全国都市緑化はちおうじフェア行事に出展参加

西南エリア南浅川会場で、当会の活動パネルと古道橋付近で採取した水生生物・魚の水槽展示を行いました。特に、水槽展示は若い親子連れに好評で南浅川の水質が改善されたことを周知することができました。また、長房市民センターでは八王子・日野カワセミ会と合同で活動パネルを展示し、紹介しました。

３ 第３８回八王子いちょう祭りの環境支援活動

２９年度も１１月にいちょう祭りで高校生・大学生を指導し、祭りのごみ分別収集に取り組みました。１年生が全員参加する桑志高校では事前説明会を開き、ごみ総合相談センターと当会が市のごみの現状・取組・分別について説明をしました。２日間の来場者は５０万人を超えましたが、ごみの量（可燃ごみ）は３トンで前年の８０％と減っています。

協力した高校生・大学生がこの活動を通じ“ごみ問題”を考え、理解することを願っています。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部地区のみどりは、周辺地域の小規模開発により減少しています。さらに、手入れの行き届かない里山も見受けられます。

浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行っています。COD値はきれいを示す1～2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られるので、一層の清掃活動と啓発活動が続ける必要があります。

年2回の6駅周辺のごみを拾って種類ごとに数える「きれいさ評価」を行っています。たばこの吸い殻のポイ捨ては気になるものの、たばこの吸い殻を含めたごみ全体としては非常に減少しており、街全体としては年々非常にきれいになっています。

大気汚染の状況を調べるため東京一斉NO₂測定に年2回参加し、継続して測定しています。16号バイパスの通行料無料化に伴い車の通行量が増加しており、測定数値が悪くなっているので、今後とも注目していく必要があります。

地域とのつながりを大切にして街の美化、河川の美化に努め、美しい街にしていきたいと思います。

■ 東南部地区の主な取組

1 市民センターまつりへの出展

当地域では10月に由井市民センターまつり、11月に北野市民センターまつりと由井市民センターみなみ野分館まつりが実施され、6駅周辺の道路のごみの状況を半年ごとに調査した状況を「きれいさ評価」としてまとめたもの、河川の水質状況、大気汚染の状況、東南部地域の散策用に作成したハイキングマップや街路樹マップなどをパネルで展示し啓発活動を行いました。来場者からは、その中の「きれいさ評価」の10年前と比べて道路に落ちているごみが1/10近くになっているグラフを見て、「ごみを拾っている人を見かけるし、歩きながらたばこを吸っている人も少なくなった」、「きれいになれば捨てない」と意見をいただきました。

2 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月にエコひろばで小学生と保護者を対象に「ソーラークッキング」を行いました。この催しは、ガスマットを使って太陽光を集めて焼き芋を作る工作をして太陽に向けてセットした後、自然エネルギーの説明やクイズを行い、再生可能エネルギーへの関心を高めるとともに太陽エネルギーの力を感じてもらいました。

3 東南部地区の駅周辺のきれいさ評価や北野駅周辺の清掃活動

年2回、区域内の6駅周辺のごみを拾って「きれいさ



北野駅周辺の清掃活動

評価」を行っています。依然としてたばこの吸い殻のポイ捨てが見られるものの、市・町会・自治会、事業者、学校、各種団体、個人ボランティアなどの美化に対する思いが効果を表して、落ちているごみは非常に少なくなりました。12月には市と北野町会、打越町会との協働により北野駅前で喫煙マナーアップキャンペーンを行い、チラシとティッシュペーパーを配ってたばこのポイ捨てをしないよう呼びかけました。毎月の活動として北野駅周辺と湯殿川下田橋周辺のごみ拾いをして、街の美化と啓発に努めました。



喫煙マナーアップキャンペーン

4 河川の水質調査と清掃

6月の全国一斉調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行い、12月には同じ地区で独自の水質調査を行いました。COD値はきれいを示す1~2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られるので、一層の清掃と啓発活動が続ける必要があります。

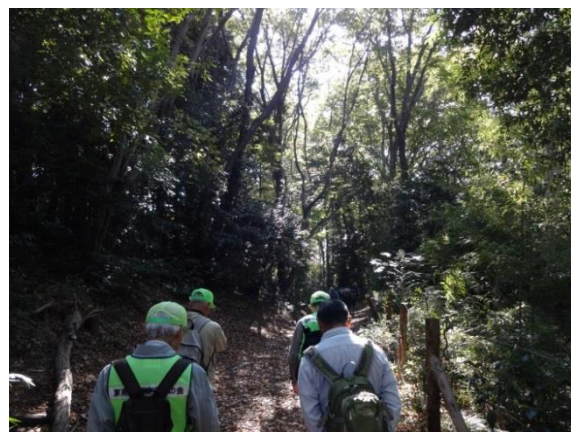
また、4月の浅川・湯殿川クリーンデーは浅川流域市民フォーラム、都、市、長沼町会と合同で清掃を行いました。参加者は、浅川流域市民フォーラム3名、都8名、市2名、長沼町会59名、一般参加3名と会員5名の計80名でした。7月と2月には湯殿川の清掃を都と市の支援を受けて計画し、流域町会にチラシで呼びかけて実施しました。

5 地域の自然・歴史の調査と勉強会と自然体験講座

自然体験講座は7月に計画した「イカダで川下り」は悪天候のため中止となりましたが、10月に開催した講座は参加者が24名で、片倉城跡公園、大塚山公園、絹の道の歴史を学びながら散策しました。コースの最終地点である小泉家屋敷では、都の文化財にも指定されている歴史のある建物をきちんと維持していく苦勞を感じました。



自然体験講座「イカダで川下り」



自然体験講座「片倉城跡・絹の道を尋ねて」

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧・由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、南側は多摩ニュータウンとして、地域の特徴としてのみどりの景観をそれぞれ形成しています。この地区は、空気や水の供給源であるみどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものが生きていくことができる環境として守られています。古くは、昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足し、以来30年余にわたり、多くの住民の努力によって多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。

その後、平成11年に別所地区の面積19.8haの「長池公園」が完成移管され、堀之内地区の面積5.2haの「堀之内寺沢里山公園」とともに整備され、隣接の東山地区も、みどりの保全を重視した緑地に囲まれた住宅地域になっています。さらに、堀之内の里山について、都の自然保護条例による里山保全地域に指定された「宮嶽谷戸」のみどりの保全活動も進めています。

■ 東部地区の主な取組

1 里山保全活動の推進

長池公園や寺沢里山公園、堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。長池公園では「長池里山クラブ」が活動主体になり、毎月第2土曜日を中心に、スタッフによる保全活動と活動の事前準備を行っています。29年度の初回は4月に行い、70名近い人が参加しました。主な活動は、4月「炭焼き」、6月「田植え」、10月「稲刈り」、12月「収穫祭」での餅つきで、正月には“どんどこ焼き”を行い、2月「炭焼き」、そして、3月「椎茸の駒打ち」で年間行事を終了しました。堀之内里山保全地域では、主に堀之内里山管理協議会（「里山農業クラブ」、「ユギ里山保全チーム」、「多摩丘陵の自然を守る会」で構成）が、耕作を放棄されて荒廃した「谷戸源頭部」のアズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い、里山の保全整備を推進しています。

また、多摩丘陵の自然を知ってもらうため、春と秋に樹木や草花を学習しながら歩く自然観察会「自然体験講座」を「多摩丘陵の自然を守る会」の協力のもと、共同して作成した「由木地区自然観察路マップ」を活用して実施しました。また、同様に「由木地区樹木マップ」も作成しています。



社寺・巨樹と薬用植物園を巡る（自然体験講座）

2 花壇の維持・管理

南大沢駅前のペDESTリアンデッキに設置してある大型花壇22基の維持・管理を実施しています。南大沢駅前の花壇管理は、市の道路アドプト活動として、「南大沢みどりのサポーターの会」が主体で、毎月2回実施しています。また、道路交通部に活動看板を設置してもらうとともに会員募集を行いました。6月は「夏苗」の植付けを行い、7月中旬から8月一杯は苗の植え込みと、水や

りをサポーターの会と毎週交替で“夏の水やり”を実施しました。秋恒例の「南大沢市民センターまつり」には、コンテナガーデンコンテストに参加しました。

3 環境教育支援事業の推進

環境学習支援活動として、地区内の小・中学校で、環境教育の支援を実施しています。由木東小学校では、4年生（100名）を対象に、6月と10月に浅川・ふれあい橋付近で川の学習支援を行い、12月には発表会を行いました。

4 大気汚染測定と水質調査

大気汚染の調査と河川の水質調査は、毎年、関連団体と協働して実施しています。大気汚染の調査は、毎年6月と12月に行われる「大気汚染測定運動東京連絡会」の主催する全都一斉測定に参加し、25か所で実施しました。河川の水質調査は、6月の年1回の「全国一斉水質調査」に、「浅川流域市民フォーラム」と連携して行っており、大栗川3か所、大田川2か所、大栗川支流5か所の計10か所で測定しました。（各測定結果は、「環境白書」データ集に掲載）

5 環境関連団体との交流

「多摩丘陵里山連絡会」との連携を引き続きとるとともに、環境保全で活躍する各種活動団体と情報交換をし、活動支援を行っています。「多摩丘陵の自然を守る会」のほか、「里山農業クラブ」、「NPO法人 YUGI」、「トウキョウサンショウウオを守る由木の会」などと連絡協調しています。都の自然保護条例による「堀之内里山保全地域」の里山保全管理活動に関しては、環境保全課からの要請に基づき、「多摩丘陵の自然を守る会」ほか地元の堀之内の各組織も協力しています。西緑地科学クラブと連携し、子どもたちに里山の竹による凧作りや竹笛造りを体験してもらう活動を実施しました。



環境フェスティバルで人気の竹笛つくり

6 第34回全国都市緑化はちおうじフェアの行事へ参加

9月16日～10月15日に行われた東エリア行事へ参加し、「自然観察路を歩く ①多摩丘陵を観察しながら歩く／里山風景を堪能 ②社寺・巨樹と薬用植物園を巡る」の実施、「自然観察路および樹木マップならびにスマホ活用によるマップなし歩きソフト・検索パンフ」を作成しました。また、南大沢駅前コンシェルジュにてポスターを展示し、説明をしながらマップ類を配布しました。同フェアのPRに協力をしました。

7 情報発信

由木地区環境市民会議のウェブサイトを開設し、自然観察会で観察された植物種の写真を閲覧可能にするとともに、「はちコミねっと」にも会の情報を掲載しています。由木地区自然観察路マップ及び由木地区樹木マップについても上記ウェブサイトに掲載し、これらの地図の情報をダウンロードしてスマートフォンなどにより野外で自然観察路のルートへの案内などができるようにしています。

地域の行動評価一覧

29年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、その地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

＜中央地区環境市民会議での総括評価＞

ごみの分別・リサイクルについては、イベントを中心に活動を十分に行うことができた。温暖化防止活動ではイベントでの活発な活動と会員のスキルアップについては資格の取得など一定の成果を得られた。河川の環境保全では清掃活動など十分に活動できた。環境教育・学習については、学校側の要望に柔軟に対応して取り組み、地域の自然を発見させることができた。まちの環境保全にかかる活動では自然体験講座、大気汚染測定などで貢献できた。市制100周年記念イベント、全国都市緑化はちおうじフェアでは全部会で取り組み、花苗、花壇の管理、まつり・イベントへの参加など貢献できた。

＜環境推進会議での相互評価＞

年間を通し市民センターまつりやイベントに積極的に参加し、ごみ分別をクイズ形式で行いリサイクルを啓発するなど、すぐに実践できる親しみやすい活動を展開している。また、その活動を活かし、全国都市緑化八王子フェアのフードフェスティバルでは3日間にわたり来場者にごみの分別指導を実施するとともに、花壇の管理にも携わるなど大いに貢献いただいた。今後とも市民・事業者・市と連携した活動を展開していただきたい。

＜北部地区環境市民会議での総括評価＞

全ての活動について対応できた。

＜環境推進会議での相互評価＞

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的に行い、小学生への環境学習の実施や企業、学生の緑地保全活動の支援など、市の魅力のひとつであるみどりを啓発し活用する取組はとても重要であり、環境基本計画の施策とも合致した内容となっている。また、新たに更新された環境マップは地区の様々な写真を使用した北部地区の魅力を発信する内容になっている。今後も市の緑地や環境マップを活用した講座の開催することで市の魅力を発信していただきたい。

＜西部地区環境市民会議での総括評価＞

計画通りに実施出来た項目もあるが、全体としては物足りなさを感じる。次年度に向けて、少ない実働会員の中で今後どのようにしていくかが課題である。

＜環境推進会議での相互評価＞

西部地区は継続的に学習支援を行い、29年度にダンボールコンポストを活用した学習で式分方小学校が環境省主催の第5回グットライフアワードで環境大臣賞を受賞できたことは、すばらしい成果である。今後も西部地区や他の地区での環境教育支援に積極的に取り組んでいただきたい。また、地域住民に向けた「環境レポート」を定期的に発信しているが、さらに町会・自治会とも連携した活動を拡大してもらいたい。

＜西南部地区環境市民会議での総括評価＞

雨で中止の８月の水辺調査、１０月の企業社会貢献活動以外は全体、生活部会、自然部会活動ともすべて計画通り実施した。

２９年は次に示すように行政、学校、団体との協働あるいは関係する活動が増えた。協働活動は活動の質、成果、人々への関心度を高める。今後も力を入れていく。

２９年度行った協働活動は高尾山環境パトロール環境保全活動、案内板設置活動、小仏峠整備活動、湯殿川水辺環境調査、湯殿川生き物調査、駒木野野草保護・観察活動、自然体験講座、不法投棄パトロール、野鳥観察会、教育支援２１回、長房市民センターパネル展、いちょう祭りごみの分別指導である。

高尾山環境パトロール、湯殿川清掃活動、不法投棄パトロールを今年も行ったが、ごみ・不法投棄物が減ってきている。これは私たち活動の効果である。今後も活動を継続する。

＜環境推進会議での相互評価＞

市制１００周年記念事業と連携した体験学習フェスティバルの参加や全国都市緑化はちおうじフェアでの西南部のサテライト会場への出展など積極的に取り組んでいただいた。例年行っているいちょう祭りでのごみ分別指導や市民センターまつりへの参加など、地域と連携した活動は、貢献に大きな成果をあげている。また、高尾山で継続して実施している環境保全活動や小学校への環境教育支援など、地区の環境保全や環境意識の向上につながっている。今後も継続して取り組んでいただきたい。

＜東南部区環境市民会議での総括評価＞

雨天による中止を除き計画のとおり実施できた。町会とも協働で活動できた。駅周辺や川の清掃、公園の清掃をしていると声をかけてくれる人があり、地域との連携を感じる。

＜環境推進会議での相互評価＞

東南部地区内６駅周辺のごみの量によるきれいさ評価や、町会と連携した喫煙マナーアップキャンペーン、駅周辺や川の清掃活動を継続して実施しており、データからもきれいなまちづくりへの効果が表れていることは高く評価できる。今後この事業を他地域へ拡大させるような取組も期待する。地域の歴史や自然を紹介する自然体験講座、市民センターまつりへの参加など地域へ向けた活動を実施していることから、今後も引き続き、地域と連携し意識啓発に努めていただきたい。

＜東部地区環境市民会議での総括評価＞

ほぼ計画とおりに実施できた。地域との連携した活動を心がけている。駅周辺や河川の清掃をしていると挨拶をしてくれる人がいる。すこしずつ輪を広げていくことが必要。

＜環境推進会議での相互評価＞

全国都市緑化はちおうじフェアではサテライト会場であった南大沢駅前の大型花壇の維持管理に尽力をいただいた。また、フェアと連携した自然体験講座や自然観察路マップや樹木マップも市民に大変好評であった。今後も地元だけでなく広く市民に向けた情報発信をお願いしたい。また、隔月に行う会員向けの学習会は様々な問題に取り組まれており、会員相互のステップアップにも有益であり、活動に深みと広がりを与えられるため、引き続き取り組んでいただきたい。

第2節 環境保全団体の活動紹介

市内には、環境市民会議をはじめ、地域で環境保全活動をしている団体等が多数あります。こうした地域に根ざした様々な活動が力となり、望ましい環境像の実現に向かっていきます。

■武蔵野土木工業株式会社

1 概要

武蔵野土木工業株式会社は、昭和58年からコンクリートを中心としたがれき類のリサイクル、平成7年からは建設発生土の再資源化に取り組んできました。

また、優良産廃処理業者認定取得、エコアクション21認証登録を行ない、環境管理システムを有効に活用し、徹底した環境負荷の低減と環境に配慮した事業活動を行なっています。

約35年に渡って営んできた建設廃棄物の再資源化という事業を通じ、資源循環の環を未来の子どもたちへとつないでいくことが私たちの使命であると考えており、私たちの事業活動が地球環境問題の一助となるよう、リサイクルシステムの向上と環境負荷の低減に努めています。



2 29年度の主な活動実績

(1) 産業廃棄物の再資源化について

解体現場等から排出されたコンクリートを受け入れ、リサイクルをしています。再生砕石等や再生コンクリート用の再生骨材の製造をしており、再資源化率は99.9%を超えています。限りある資源を再資源化し、循環型社会の形成に大きく貢献しています。

(2) エコアクション21について

環境管理活動では目標を定め、環境負荷低減に努めています。主な取組としては、電気はエアコンの適正使用の徹底、化石燃料は運搬車・重機のエコドライブの徹底、水は節水の徹底、ゴミは分別を徹底しています。それらの数値を把握し、それに基づき環境を意識した行動への指導・助言を行い、計画から改善（PDCAサイクル）を徹底して実施しています。

(3) 社会・地域貢献について

リサイクル事業を通じて、関わるすべての幸せを追求することを経営理念として事業活動を行なっています。地元地域の環境美化にも努め、定期的に工場周辺の清掃活動を行なっています。

また、事業活動の理解と協力関係が築けるよう地元の方を招待し、見学会も実施しています。その他にも、ベルマーク運動、エコキャップ運動など、様々な角度から社会・地域に貢献できる事業活動を行なっています。



清掃活動



工場見学会

■長池里山クラブ

1 概要

長池里山クラブは、八王子市長池公園（八王子市別所2丁目）の自然環境と体験ゾーンの施設を有効に活用して、里山と自然のしくみを学び、地域の里山文化と自然環境を後世に受け継いでいくことを目的に平成11年に発足しました。長池公園の活動エリアで、地域住民を中心に企画運営を行い、幅広く子供から大人までの会員により、田んぼ・畑の活動とともに、雑木林の更新活動・炭焼きなどの里山活動を行っています。



田植え集合写真（6月）

2 29年度の主な活動実績

（1）里山の定例活動

春から秋にかけての稲作（苗代作り、代掻き、畔塗り、田植え、草取り、稲刈り、脱穀）、畑作（ジャガイモ、サツマイモなど）、自然観察（4月、9月）、案山子づくり・流しそうめん（8月）、餅つきを行う収穫祭（12月）、どんど焼き（1月）、炭焼き（2月）、シイタケ菌の駒打ち（3月）などを月1回の定例活動として実施しています。



田植え（4月）

（2）里山の自主活動

定例活動以外に、毎週、田んぼ・畑の日々の管理、体験ゾーンの草刈り・植生保護、定例活動の準備などを行って、体験ゾーンの里山環境の保全に努めています。また、長池公園の材料を活かした門松作りを行い、長池公園正面入口や体験ゾーン入口に設置しました。



門松作り（12月）

（3）雑木林の更新活動

14年から「コナラ・クヌギ林の更新および里山風景の再現」の活動を開始し、26年からは「雑木林更新を核とした里山循環の実践」をテーマに体験ゾーンの雑木林を16区画に分けて、里山の循環を図るため雑木林の更新活動（伐木→萌芽更新・植樹→育成→伐木。約15年周期）を行っています。29年度も炭焼きに合わせて実施しました。また、チェーンソーを使用していることから希望者にはチェーンソー講習会も実施しました。



雑木林の更新 伐木（2月）

（4）炭焼き

4月と2月の2回、炭焼きを体験ゾーンの炭焼き小屋で実施しました。炭材は長池公園体験ゾーンの雑木林の更新活動で伐採したコナラを会員の手で準備しました。また、炭焼きで発生する煙と臭いを除去する装置の自作、事前に周辺地域に炭焼きの告知チラシを配布するなど、公園周辺の皆さまにご迷惑がかからないように対策を取っています。また、炭の放射能測定も実施し、福島原発の事故の影響が許容値以下であることを確認しています。



炭焼き 口焚き（2月）